

戦後初めて竹島を訪れる

まさしく海の寶庫

県水試船 島根丸 韓国人が採取に従事

島根県水試船島根丸(六三〇)が戦後初の日本船としてその帰属をめぐって日韓両国に微妙な経緯をたどっている日本海上の宝庫竹島を訪れ同島の模様を判つた。これは日本海域の各試験場共同調査として目下研究が行われている対馬暖流の海況調査のため去る二十七日午前九時浜田港を出港、子午線百三十二度、百三十海里北上した島根丸がたまく問題の竹島をキヤツチしたもので戦前隠岐島五箇村の離島として日本海の宝庫、またアシカがいる地として知られていた島の状況をもたらし前記対馬暖流海況調査をして二十九日朝帰港してきた。

島は浜田港から真北に百四十海里、隠岐島から九十海里、韓国領鬱陵島から六十海里にあり乗組員の話ではうわさによる米軍の爆弾投下

による島の損傷は認められずむしろ首ながらに二カ所の岩山が海中から突出、その周辺には無数の岩礁が白波のキハをむいていた。同



船が午前九時浜田港を出発約十七時間目の翌二十八日午前四時ごろ突然右げんに竹島を発見、島を一周すると島の名物アシカがまだ時期が早いめかわずか五、六頭が船のエンジンに齧き海中に姿を没した。さらに北側に同島唯一のわずかな入江に差しかゝると五十位の動力と無動力の小さな漁船が発見され、これと同時に先方の漁船十隻位は一せいにスル／＼と韓国旗を掲げうち二名が伝馬船を巧みに操つて同船に近付き元日本にいたという三十歳位の一人が語つたところによると彼ら三十名は鬱陵島の漁民で主にアワビ、サザエ、ワカメ、天草などを採取しているという。韓国人の好意で伝馬船に乗り乗組員五名が島に上陸したが、その話によると韓国人は本格的な潜水器具を持つていて各種貝類、海草類を採取し、二、三日すれば各船が船一ぱいに積んで鬱陵島に帰るといふ文字通りの宝庫でアワビなども内地近海で取れるもの

大アワビをとつている韓国人

の三倍も大きいものを取つているという。アシカは捕獲器具がないため彼らは獲つていないといつていた。回遊魚のサバ、サンマなどもよく獲れるが鬱陵島に持つて帰つても加工設備がないためあまり獲らないといふ、島のそこ／＼に取りたてのワカメが干しならべでありやはり竹島は日本海の宝庫だと語つている。帰途同船は同島周辺でハエナワ漁業も行ったが海温が低いため思うような成績はあがらなかった。水試では同島を中心にした海況、漁況調査結果を近くとりまとめ新しい竹島の価値を決めることにしている。